

高校生、斬新アイデア次々

ハロウィーンの仮装、「映える」巨大な何か：

八戸市中心街を歩行者天国とする恒例の「はちのへホコテン」。10月22日の開催日は、初めて高校生主体の企画が行われる。渋谷のようなハロウィーンの仮装、巨大な何かを出現させる…。高校生からは話題性やインパクトに富んだアイデアが次々と生まれている。中心街に関わる大人たちは、街に活気を生む一手になればと期待を寄せる。

(出川しのぶ)

ホコテンは昨年ま ちづくり八戸」に移行で、中心街関係者らで。新たな試みとして、実行委員会が企画、高校生企画のホコテン、運営していた。八戸市を主催することに戸商工会議所に今年、なった。

中心街の再興に向けた 八戸七夕まつり初日取り組みを推進する中、の15日、同市三日町の心街委員会が発足。ホ「はちのへ」で、同委員会主催も同委員 会の金入健雄さん(42)と第三セクター「まを座長に「高校生・若



はちのへホコテンの実施案について話し合う高校生ら
=15日、八戸市

10月22日「はちのへホコテン」企画

が数班から挙がったほか、自作衣装のファッションショー、交流サイト(SNS)上で「映える」巨大な何かの設置、プロジェクトの意見マップなどが出た。

者まちなかワーキンググループ」の初会議が開かれた。参加は中心街に近い学校から、青森県立八戸高13人、県立八戸東高10人、千葉もらった。初対面の面々だが、街に対する同じ思いを持った高校生と良い話し合いができた」と、充実した表情だった。

「大人では考え付かないこと、高校や大学ではできないことをミックスして、新しいことをしていきたい」。あいさつで金入座長が呼びかけた。

市内で地域活性化の活動に携わる関係者の講話を聴き、まつりを分かれてグループディスカッションし、ホコテンの案を出し合った。

10月の時期に合わせ、ハロウィーンの案